

岩手県科学技術イノベーション指針の構成

I 科学技術を巡る状況

【国の動向】

- 第5期科学技術基本計画、未来投資戦略2018等により **Society5.0の実現**に向けた取組を推進。
経済発展と社会的課題の解決を目指す
- 2015年9月の国連サミットで「持続可能な開発目標 (SDGs)」採択、日本でも積極的に取組を推進



【県の動向】

- 新たな総合計画を策定、物質的な豊かさに加え、心の豊かさや地域の人々のつながりなども大切に、一人ひとりの幸福度を高める社会づくりを進める。
- 科学の振興は社会経済活動や教育・研究の土台であり、8つの政策分野を支える基盤。



- 経済状況は、県内総生産、製造品出荷額とも増加から横ばい傾向
- 研究開発状況については、研究開発型企業数は全国と比べ少ない
- I L C実現に向けた受入れ体制の整備が進む

II これまでの成果と課題

【成果】

- 持続的なイノベーションの創出に向けて産学官が連携し共同研究を推進するなかで、分子接合技術をはじめオリジナリティの高い研究成果の実用化が進む
- 積極的に事業展開を行う研究開発型のベンチャー企業の動きが見られ、今後、ライフサイエンス分野で新たな産業集積が期待される

【課題】

- 研究開発型企業や販売力の強い企業が全国に比べ少なく、新たな付加価値を創出する基盤を強化していくことが引き続き必要
- 今後、イノベーションは、かつての産業、経済の視点だけではなく、生活全般をカバーしており、社会のニーズに広く適用していく視点も求められる

III 基本目標

【いわて県民計画 (2019~2028) における基本目標】

東日本大震災津波の経験に基づき、引き続き復興に取り組みながら、お互いに幸福を守り育てる希望郷いわて

【科学技術の基本目標】

「お互いに幸福を守り育てる希望郷いわて」の実現に向け、岩手の人、岩手の大地がイノベーションの源泉となり、社会の新たな価値を生み出し、それを社会に還元していきます

IV 目標実現に向けた戦略

Society 5.0 の目指す超スマート社会を支える技術をあらゆる場面で活用していきながら、イノベーションを展開

【イノベーション戦略】

戦略Ⅰ 人材育成・定着

- 次代の研究開発を担う人材の育成
- 科学技術に係る普及啓発
- 科学技術を担う人材の定着 等

戦略Ⅱ イノベーション環境強化

- 知財の創造・保護・活用支援体制の強化
- オープンイノベーションの仕組構築
- Society5.0の実現に向けた体制構築 等

戦略Ⅲ 資金支援

- 研究ステージに応じた資金支援
- 競争的外部資金の獲得支援
- ファンド等による資金支援 等

戦略Ⅳ 産学官金連携

- 産学官金コーディネート活動の推進
- 異分野連携の推進
- 県内外のネットワークとの連携推進 等

【数値目標】

- 研究開発型企業数：累計 400 社(2019 年度から)
- 競争的外部資金獲得金額：毎年 17 億円
- 産学官金共同研究数：310 件(2028 年度)
- 特許等出願件数：500 件(2028 年度)
- 競争的外部資金獲得件数：毎年 64 件

【科学技術の展開が期待される分野】

経済面 Ⅵ

- 次世代ものづくり
- 加速器関連
- 農林水産業高度化
- ライフサイエンス
- 環境・エネルギー
- 伝統産業高度化

文化生活面

- 文化スポーツ Ⅰ Ⅶ
- 教育 Ⅲ
- 自然環境 Ⅷ
- 生活環境 Ⅱ Ⅳ
- 安全 Ⅴ

※ 白抜きの数字は、いわて県民計画 (2019~2028) の政策分野との対応を示す。

Ⅰ 健康・余暇、Ⅱ 家族・子育て、Ⅲ 教育、Ⅳ 居住環境・コミュニティ、Ⅴ 安全、Ⅵ 仕事・収入、Ⅶ 歴史・文化、Ⅷ 自然環境